

生物多様性加茂プラン

生物多様性が豊かで
暮らしやすい地域をめざして



Contents

1

p.3

計画の背景と目的

2

p.4

生物多様性
加茂プランの
作成に当たって

3

p.5

生きものの個性と
つながり
～生物多様性とは～

4

p.6

生物多様性から
得られる恵み
～生態系サービスとは～

5

p.9

対象とする区域と
区域の特徴

6

p.13

生物多様性の課題

7

p.15

生物多様性に対する
加茂地域の方々の思い

8

p.17

目標

9

p.19

総合的かつ計画的に
講ずべき施策

10

p.22

施策を推進するために
必要な事項

はじめに

美濃加茂市

美濃加茂市長 ○○○○

写真

坂祝町

坂祝町長 ○○○○

写真

富加町

富加町長 ○○○○

写真

川辺町

川辺町長 ○○○○

写真

七宗町

七宗町長 ○○○○

写真

八百津町

八百津町長 ○○○○

写真

白川町

白川町長 ○○○○

写真

東白川村

東白川村長 ○○○○

写真

1

計画の背景と目的

加茂地域の8市町村（美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村）は、「**みのかも定住自立圏**」を形成し、それぞれの地域が持つ強みを活かし、弱みを補完し合いながら、圏域を活性化させ、「**住み続けたい」「住んでみたい**」と感じるエリアを目指して取り組んでいます。

みのかも定住自立圏では、「生物多様性地域連携促進事業」を展開しており、その一環として、平成27年度から3年間、自然環境基礎調査を行い、地域に生息・生育する動植物の分布状況を明らかにするとともに、加茂地域における「貴重な動植物種」（加茂地区版レッドリスト）の選定を行いました。その結果は、書籍（「**守りたい加茂の豊かな自然**」）にまとめ、刊行しています。



「守りたい加茂の豊かな自然」では、加茂地域には、地域特有の地形や気候などに根差した豊かな自然環境が見られる一方で、近年になって大きく数を減らしつつある在来の動植物もあることが示されています。特に水田地帯では、圃場整備の実施、耕作放棄地の増加、外来種の出現などの影響を受けて環境が変化してきており、かつては身近だった人里近くの動植物が大きな影響を受けていることがうかがわれました。

地域の方々の生活実感としても、川べりで竹林が拡大して川に近づきにくなった、川が荒れて友釣りで魚が釣れなくなった、イノシシが増えて山に行きづらくなった、鳥獣害の被害が増えたなどの声が多く聞かれます。詳細は、「4生態系サービス」で述べますが、私たちの豊かな食生活や地域固有の文化は、多くの生きものとその繋がりによって作り出されているもので、私たちは次の世代にこうした豊かな自然環境を引き継いでいかなければなりません。

この計画は、動植物の生息・生育環境や生態系を保全し、持続的に利用することで、「**生物多様性が豊かで暮らしやすい地域をめざす**」ことをねらいとして作成するものです。

また、生物多様性を保全する活動を通して、**地域の魅力を再発見し、地域の文化を継承し、地域の活性化につなげていくことも意図しています。**



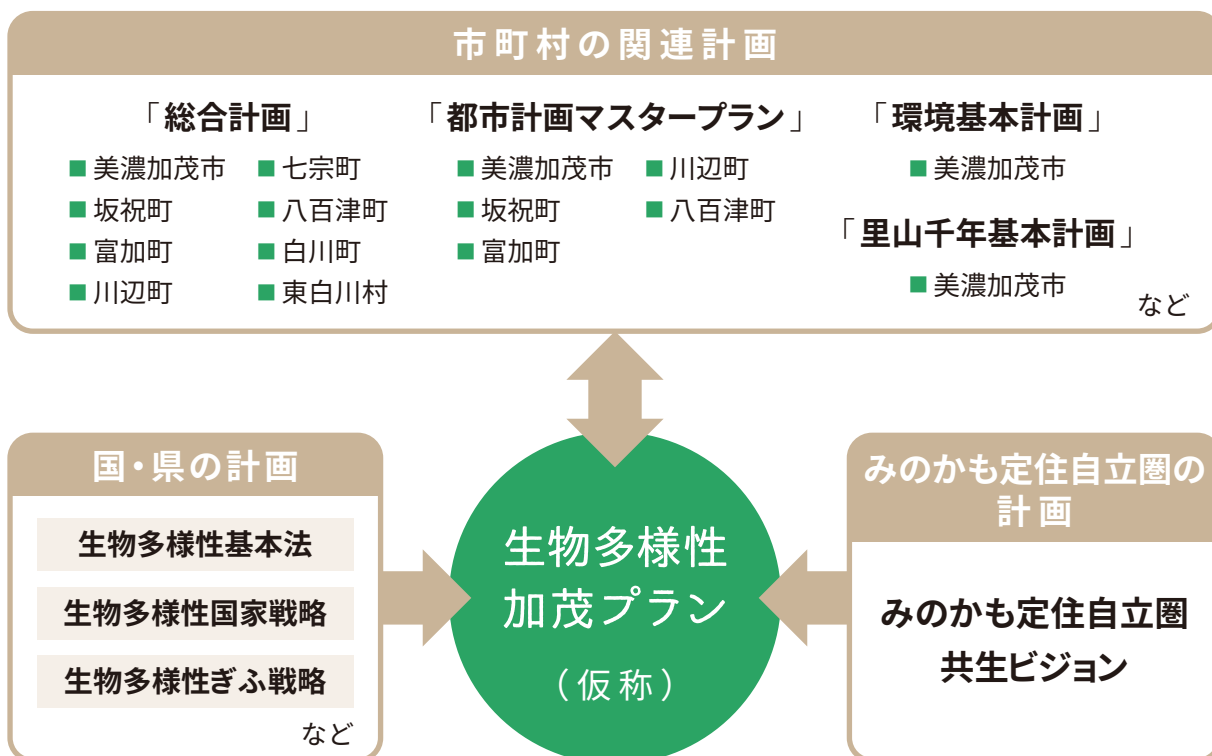
2 生物多様性加茂プラン(仮称)の作成に当たって

本計画の位置づけ

本計画は、生物多様性基本法第13条に基づく「生物多様性地域戦略」であり、国が策定した生物多様性国家戦略を基本として、加茂地域8市町村の自然環境や社会環境を踏まえた上で地域の生物多様性の保全と持続的な利用を図るための計画です。また、この計画は、みのかも定住自立圏共生ビジョンを受けて作成する計画です。

本計画は、関係市町村の施策における生物多様性の保全と利用に関するガイドラインとなり、また、それぞれの地域で行われる生物多様性を保全する活動の指針となるものです。

国や県の計画、各市町村の関連計画との関係



加茂地域の皆様からのアンケート調査の実施

美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村の8市町村にお住いの方を対象に、それぞれの市町村の人口構成に基づいて2,000人を無作為抽出し、郵送配布、郵送回収により実施し、調査の結果を本計画に反映しました。なお、ご返送いただきました割合(回収率)は41.3%でした。

アンケート調査結果の抜粋は、「7 生物多様性に対する加茂地域の方々の思い」に記しました。

3 生きものの個性とつながり ～ 生物多様性とは～

地球上の人間も含めた多くの生き物が複雑に関わりあって存在していることを「生物多様性」と呼んでいます。

生物多様性には、「生態系の多様性」、「種間(種)の多様性」、「種内(遺伝子)の多様性」の3つがあります。

生態系の多様性

生態系の多様性とは、森林、河川、農地、湿地などいろいろなタイプの生態系がそれぞれの地域に存在していることをいいます。



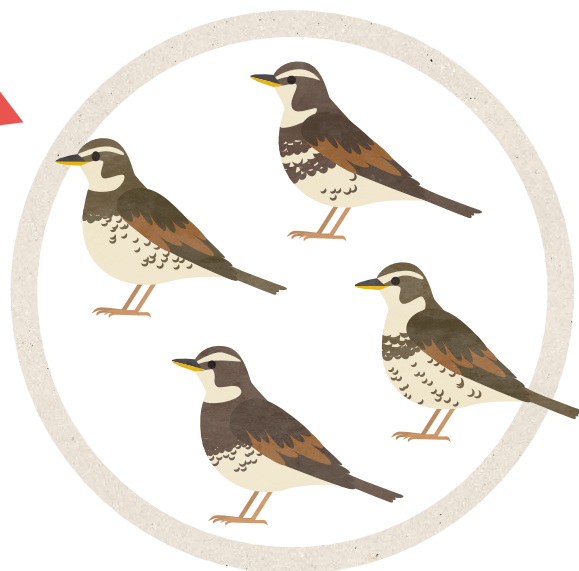
種間(種)の多様性

種の多様性とは、いろいろな種類の動物・植物や菌類、バクテリアなどが生息・生育していることをいいます。加茂地域の自然環境基礎調査では、植物、昆虫、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類など5,347種類の生物が確認されています。



種内(遺伝子)の多様性

遺伝子の多様性とは、同じ種であっても、異なる遺伝子を持つことによって、形や模様、生態などに多様な個性があることをいいます。たとえば、加茂地域でもよく見られるツグミでは、個体ごとに腹部の模様が違っていますが、これは遺伝子に違いがあるためです。



4 生物多様性から得られる恵み ～ 生態系サービスとは ～

私たちの暮らしは、生物多様性を基盤とする生態系がつくり出す大気中の酸素、土壌、食料、木材や、地域独自の文化の多様性などによって支えられています。こうした働きを「生態系サービス」と呼んでいます。

生態系サービスには、**基盤サービス**、**供給サービス**、**調整サービス**、**文化的サービス**があります。

生存を支える 基盤 サービス

基盤サービスは、植物の光合成による酸素の供給や、昆虫や微生物などがつくる土壌の形成など、生物の生存を支える環境をつくる働きです。

日常生活に必要な 資源を提供する 供給 サービス

供給サービスは、私たちの暮らしに必要な食料や水、木材、繊維、医薬品など、日常生活に必要な資源を提供する働きです。山菜やジビエ（狩猟で得られる野生鳥獣の食肉）なども供給サービスです。

暮らしの安全を もたらす 調整 サービス

調整サービスとは、水質浄化や気候の緩和、健全な森林の存在による自然災害の防止や被害の軽減など、暮らしの安全をもたらす働きです。たとえば、植物が地面を覆うことで、土壌の浸食を防止する働きや、植物が大気汚染や騒音を緩和する効果などがあります。

文化を支える 文化的 サービス

文化的サービスとは、宗教的な価値や自然景観などの審美的な価値、レクリエーションの場など地域性のある文化を支える働きです。古来より信仰の対象とされてきた自然は、神事や祭事を通じて地域のつながりを強める役割もあります。また、エコツーリズムのように観光を通じて経済効果を得られる活動もあります。

生物多様性から
得られる
地域の食文化



栗きんとん



お茶



お酒



朴葉寿司



ウナギ料理



イナゴの佃煮



へぼ飯



杵振り踊り (白川町)

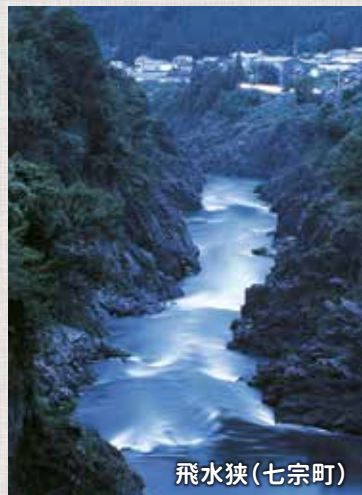
生物多様性から
生まれた
地域の祭り



だんじり祭り (八百津町)



神瀝神社例大祭 (七宗町)



飛水狭(七宗町)



ホタル(美濃加茂市)
写真提供：朝日 伸久氏

生物多様性を 活かした景観や レクリエーション



猿啄城展望台登山道(坂祝町)



ツメレンゲ群生地
(川辺町)



川遊び(八百津町)
写真提供：中村 憲二氏



母樹林公園(東白川町)



ため池百選 八幡池の紅葉(坂祝町)



五宝の滝(八百津町)
写真提供：中村 憲二氏



梨割山と白華山清水寺(富加町)



飛騨木曽川国定公園(白川町)



米田富士(川辺町)



アユの友釣り(東白川村)



リバーポートパーク美濃加茂(美濃加茂市)

5 対象とする区域と 区域の特徴

対象とする区域

この計画の対象地域は、美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村の8市町村とします。



加茂地域の自然

～ 日本列島の生きものたちの交差点 ～

加茂地域には、木曽川・飛騨川といった大きな川が流れ、美濃山地や美濃加茂盆地といった多様な自然環境を有することで、様々な動植物が生息・生育しています。



飛騨川(白川町)



木曽川、飛騨川合流部付近

また、南から暖帯性植物が河川沿いに北上し、北からは寒帯性植物が南下している接点となっていることも、地域の自然環境を特徴づけています。さらに、伝統的な農業・林業といった人々の営みによってできた里山も、野生の哺乳類や鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚、昆虫、植物などが人とともに暮らす環境として、豊かな自然を形成する源となっています。

「守りたい加茂の豊かな自然」によれば、5,347種の生物種が確認されています。その中には、加茂地域では減少し、絶滅の恐れのある種も認められ、80種が貴重な動植物種(加茂地区版レッドリスト)(10頁参照)に選定されました。レッドリストに選定された種は、河川や水田地帯に生息する種が多く選定される傾向にありました。

また、外来種も合計307種が確認され、自然環境保全の基礎資料として、外来種リストの作成が行われました。(外来種については、14頁「人間により持ち込まれたものによる危機」参照)

動植物の種数

地域の自然環境の詳細は、「守りたい加茂の豊かな自然」をご参照ください

	確認種数	貴重な動植物種(加茂地区版レッドリスト)						外来種数
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足	
シダ植物	208	0	1	7	12	5	2	2
種子植物	1,446	0	0	21	22	44	8	236
哺乳類	37	0	0	0	0	3	3	5
鳥類	202	1	0	3	4	10	0	3
爬虫類	16	0	0	0	1	1	2	2
両生類	19	0	0	1	3	4	2	1
魚類	54	0	0	4	4	3	4	12
昆虫	3,342	0	0	10	10	19	9	41
淡水貝類	18	0	0	0	3	1	1	4
十脚甲殻類	5	0	0	0	0	1	0	1
合計	5,347	1	1	46	59	91	31	307

(守りたい加茂の豊かな自然)

貴重な動植物種

加茂地区版レッドリスト

失われつつある自然環境を保全するためには、具体的にどのような生物種が減少し、絶滅のおそれがあるのか(あるいはすでに絶滅したのか)を明らかにする必要があります。これまでに、全国版(環境省作成)や岐阜県版などのレッドリストが作成されていますが、日本全体で絶滅リスクを評価した場合、加茂地域でその種が激減もしくは絶滅したとしても、その情報は反映されない可能性があります。したがって、加茂地域における自然環境の現状を調査し、評価する必要があります。

絶滅

Regionally Extinct (RE)

加茂地区ではすでに絶滅したと考えられる種

新潟県では中国産を野生復帰しているが、加茂地区では絶滅したままである。



トキ

野生絶滅

Extinct in the Wild (EW)

加茂地区において飼育・栽培下でのみ存続している種

かつては水田雑草とされるほどだったが、野生では絶滅した。



デンジソウ

絶滅危惧Ⅰ類

Critically Endangered+ Endangered (CR+EN)

加茂地区において絶滅の危機に瀕している種

他に植物はトキワシダ、ミズニラ、シデコブシなど、動物はヤマセミ、ニホンアカガエル、グンバイトンボなど、合計46種。



ハナノキ



カワバタモロコ

絶滅危惧Ⅱ類

Vulnerable (VU)

加茂地区において絶滅の危険が増大している種

他に植物はキンラン、ヘビノボラズなど、動物はタマシギ、オオサンショウウオ、ネコギギ、ガメなど、合計59種。



ニホンイシガメ



マツカサガイ

準絶滅危惧

Near Threatened (NT)

加茂地区において存続基盤が脆弱な種

他に植物はブナ、ナンバンギセルなど、動物はヤマドリ、アカハライモリ、ヌマムツ、クロゲンゴロウなど、合計91種。



ムササビ



モクズガニ

情報不足

Data Deficient (DD)

加茂地区において絶滅のおそれがあると考えられるが、カテゴリーを判定するだけの情報が不足している種

他に植物はオナモミなど、動物はホンダモモンガなど、合計31種。



ハコネサンショウウオ



ヨツボシトンボ

加茂地域の 生きものの例

ヒダサンショウウオは渓流やその周辺に生息します。生息には伏流水の豊富な山林を必要としています。

定期的に冠水するような溪流の岩場に、サツキなどが生育しています。

生育環境が変化し、個体数が減少する恐れが出てきています。

山間の小河川などの水辺に、カワセミやアカショウビンなどが見られます。

オオタカは低山から山林地帯に生息して繁殖します。

生息数は多くはなく、豊かな自然環境が保全されないと個体数が減少する恐れがあります。

低地の水田やその周辺部には、両生類のナゴヤダルマガエルなどが生息しています。

また、魚類のアブラボテは、水田地帯の小河川に生息しますが、近年、こうした生息に適した環境が減少しています。

シデコブシは、東海丘陵の
湿地やその周辺の湿った場所
に生育しています。

開発や山林の管理が行われなくなったことなどによる環境の変化によって生育環境が損なわれてきています。

ニホンイシガメは、本来は山地から平野まで広く分布していたと考えられていますが外来種との競合や生息環境の変化で生息地が減少しています。



白川町や東白川村では
白川茶として茶の栽培が盛
んで、村の産業になってい
ます。



山林地帯には、猛禽類と呼ばれる
クマタカ、ハチクマ、サシバ、フクロ
ウなどの食物連鎖の頂点に位置する
鳥類が生息しています。

こうした生き物が生息することは
自然が豊かなことを表していますが、
近年は営巣に必要な大木が減少
するなど、こうした生き物にとっての
生息環境が悪くなっています。

東白川村には、ハナノキの生育
北限地があり、国の天然記念物に
なっています。

ハナノキは山間部の湿地に生育
しますが、伐採などの影響で個体
数が減少しています。

河川の上中流にはオオサンショウ
ウオなどが生息します。最大1mを
超える世界最大の両生類です。

河川改修などによって巣穴となる
場所が減少しています。

白川町、東白川村、八百津町、七宗町には
ヒノキの植林が多く、東濃ヒノキの産地と
なっています。

里山の雑木林や河畔林ではオオムラサキや
ギフチョウなどのチョウ類が見られます。
開発や採集圧などの影響を受けています。

美濃加茂市では、水稻や野菜のほか、ナシやカキを
中心に果樹栽培が盛んにおこなわれています。
富加町では、水稻や野菜の栽培が盛んです。
坂祝町では、トマト、ネギ、花卉などが生産されています。
川辺町、八百津町では、水稻が盛んにおこなわれています。
農業では、後継者の育成や、有害鳥獣による農作物への
被害対策などが課題となっています。



6

生物多様性の課題

日本の生物多様性は、「4つの危機」にあるといわれています。

加茂地域でも、生物多様性は一見豊かに見えますが、他の地域と同様の危機がみられます。多くは人間活動による影響と考えられています。

第1の危機

開発など人間活動による生物多様性の低下

私たちは、効率的に農産物を生産するための基盤整備や、快適に生活するための宅地開発などを行ってきましたが、その過程での自然環境の改変は、生物の生息・生育環境の破壊や悪化をもたらしました。

例えば、堰の設置や河川護岸のコンクリート化は、魚の遡上を妨げたり、野生動植物の生息・生育環境の減少をもたらしています。

また、個体の乱獲など直接的な生物の採取も、個体数の減少をもたらす要因となっています。



現在では、野生生物の生息に配慮した工法も採用されています。



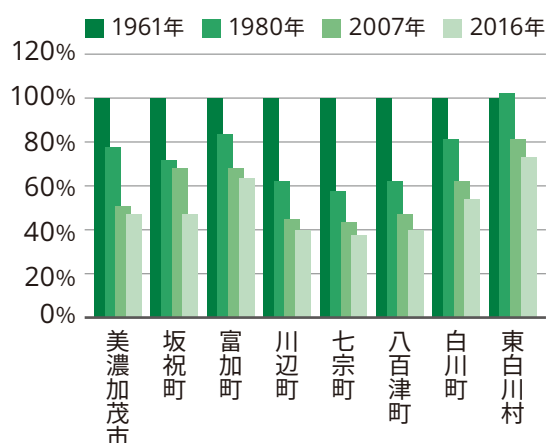
第2の危機

自然に対する働きかけの縮小による危機

薪炭林や農用林などの里山林では、人の手が加えられることで明るい環境ができ、こうした環境に特有の多様な生物を育んできました。

しかし近年では、薪や炭が使われなくなったために、山林の手入れが行われなくなって森が暗くなり、生物多様性に影響を与えています。

また、農地でも、農業従事者の高齢化や後継者不足などにより、遊休農地が増加して、環境が変化しています。耕作放棄地は野生鳥獣の隠れ場や餌場となるため、獣害をもたらす一因と考えられます。



農地面積の変化

1961年を100%とした経年変化。東白川村以外の農地面積は、1961（昭和36）年に比べて、2016（平成28年）では約半分に減っています。

（岐阜県統計書市町村別・地目別土地面積）

第3の危機

人間により持ち込まれたものによる危機

野生生物の本来の移動能力を越えて、人によって意図的・非意図的に国外や国内の他の地域から導入された生物を外来種（外来生物）といいます。こうした外来種が、地域固有の生物相や生態系を改変し、大きな脅威となっています。

「守りたい加茂の豊かな自然」によれば、加茂地域で307種の外来種が確認されています。



オオキンケイギク



アメリカザリガニ



アライグマ



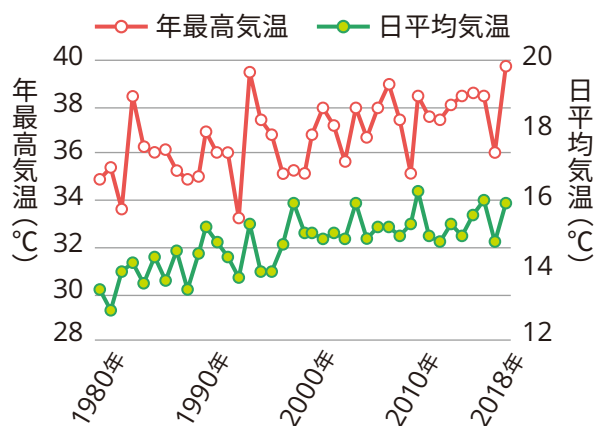
オオクチバス

第4の危機

地球環境の変化による危機

地球温暖化のほか、強い台風の頻度が増すことや降水量の変化などの気候変動などの地球環境の変化は、生物多様性に深刻な影響を与える可能性があります。

美濃加茂市での観測所でも、この30年の間に、日平均気温や年最高気温が変化しています。



年最高気温と日平均気温の推移

(気象庁アメダス美濃加茂)

アンケート調査結果から

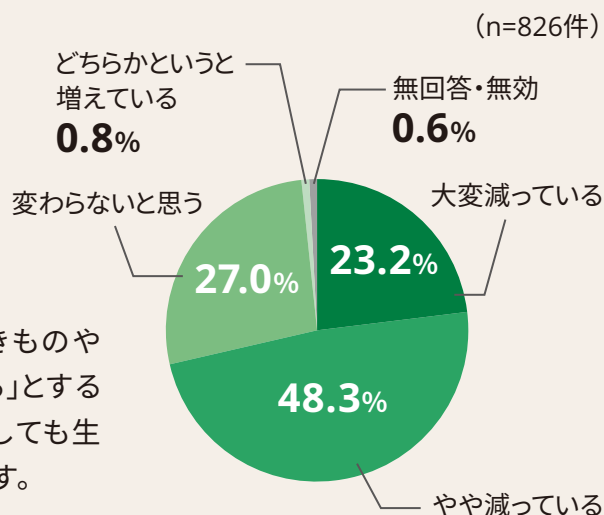
Q.



あなたは住まいのまちでドジョウやカエルなど身近な生きものや植物が最近減っていると感じますか。

アンケート調査の結果では、身近な生きものや植物が「大変減っている」、「やや減っている」とする回答が7割以上を占めており、生活実感としても生物多様性が低下していることがうかがえます。

■ 調査方法は4頁を御参照下さい。



7 生物多様性に対する 加茂地域の方々の思い

ここでは、加茂地域の8市町村の住民を対象に行った生物多様性に関するアンケート調査の結果を抜粋し、記述します。

\ 思い1 /

多くの方が自然は豊かと感じて いますが、地域差があります

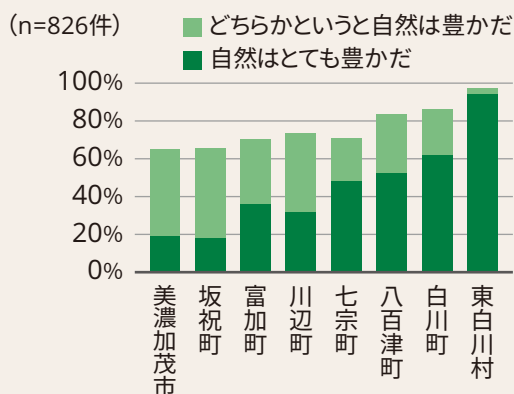
- お住まいの地域の自然環境についてどのように思うかお尋ねしたところ、8市町村全体では、約3割が「自然はとても豊かだ」と答えており、「どちらかという自然は豊かだ」をあわせると7割以上が自然の豊かさを実感しています。
- ただ、「自然はとても豊かだ」と答える割合は市町村ごとに大きな開きがあり、東白川村で9割以上、美濃加茂市や坂祝町では2割以下となっています。
- 身近な生き物や植物が最近減っているかどうかお尋ねしたところ、全体では7割以上の方が、「大変減っている」、「やや減っている」と答えています。
- 特に、以前の加茂地域の自然を知ると考えられる高年の世代ほど「大変減っている」と答える割合が高い傾向にあります。

\ 思い2 /

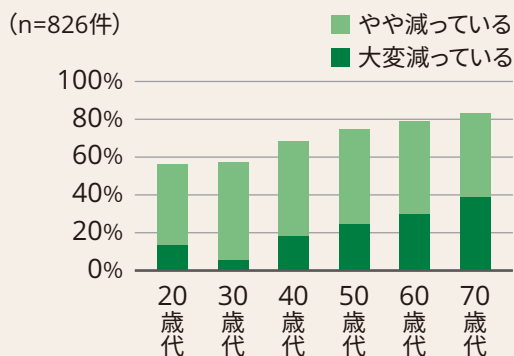
希少な生き物のことは 高年の世代の方ほどよくご存知です

- 美濃加茂市と加茂郡7町村に、絶滅のおそれのある希少な動物や植物がいることを知っていますかという問いに対して、約3割が「良く知っている」、「少しは知っている」と答えていますが、6割以上の方は、「まったく知らない」、「ほとんど知らない」と答えています。
- 年齢別にみると、特に高年の世代ほど「良く知っている」と回答する割合が高い傾向にあります。

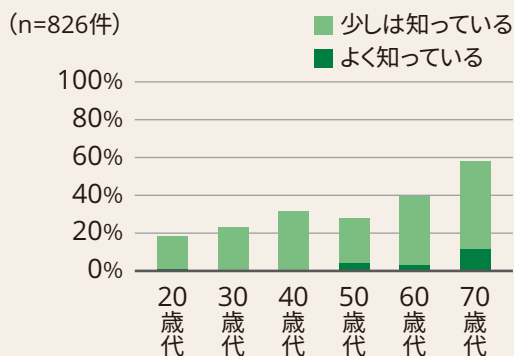
Q. あなたはお住まいのまちの自然についてどのように思いますか。



Q. あなたはお住まいのまちでドジョウやカエルなど身近な生きものや植物が最近減っていると感じますか。



Q. あなたは美濃加茂市と加茂郡7町村に、絶滅のおそれのある希少な動物や植物がいることを知っていますか。

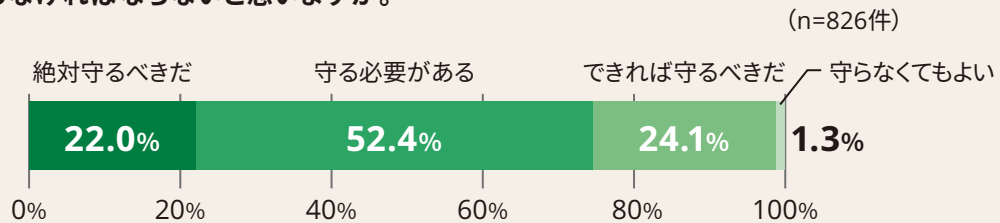


\ 思い 3 /

希少な動植物を守る必要性を 多くの人を感じています

■「希少な動物や植物を絶対に守るべきだ」や「守る必要がある」と7割以上の方が回答しており、多くの方が、希少な動植物を守る必要性を感じています。

Q. 絶滅のおそれのある希少な動物や植物は
守らなければならないと思いますか。

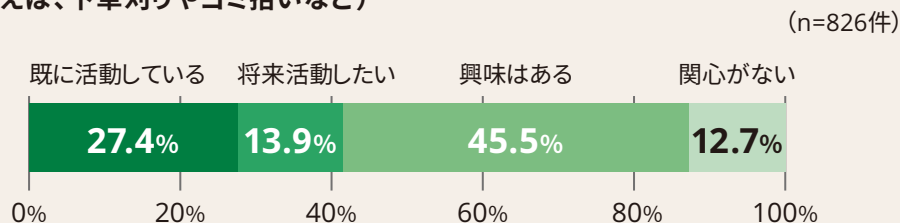


\ 思い 4 /

多くの方々が、身近な自然を 守る活動に関心を持っています

■「野山や小川など身近な自然を守る活動をすでに行っている」という回答は3割近くあります。また、「将来活動したい」は約14%、「興味はある」は45%となっており、多くの方々が、身近な自然を守る活動の必要性を感じているといえます。

Q. 野山や小川など身近な自然を守る活動についてお答えください。
(例えば、下草刈りやゴミ拾いなど)

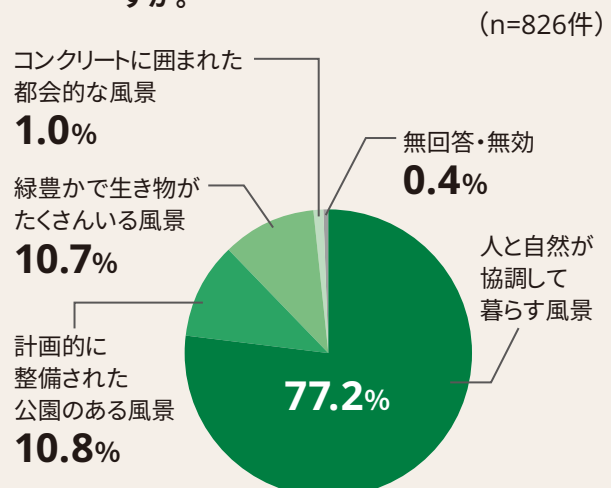


\ 思い 5 /

「人と自然が協調して暮らす風景」を 好ましい姿と答えています

■好ましいと考えるお住まいのまちの将来の姿とはどのようなものですかとの問いに、8割近くが、「人と自然が協調して暮らす風景」と答えています。

Q. あなたが好ましいと考えるお住まいの
まちの将来の姿とはどのようなもので
すか。



8 目標

これまでに見たように、加茂地域は、山地から平野まで多様な環境を有し、それぞれの環境に特有な生物が生息・生育しています。そして、そうした生物多様性に根付いた農林漁業などの産業や、食文化などが見られます。一方で、近年では、自然と日常生活のつながりが薄くなったことや、外来生物の影響などによって少しずつ地域の自然環境に変化が出てきています。

加茂地域の豊かな自然の恵みを持続的に利用し、次の世代に伝えていくために、次の目標を定め、必要な取り組みを行います。

ここでは、加茂地域の8市町村の住民を対象に行った生物多様性に関するアンケート調査の結果を抜粋し、記述します。

目標1

生物多様性が加茂地域に浸透している

加茂地域の方々を対象に実施したアンケート調査の結果では、地域に絶滅のおそれのある希少な動物や植物がいることについて、過半数以上の方が「ほとんど知らない」、「全く知らない」と答えています。

加茂地域の生物多様性を保全する第一歩として、身近な自然について「知る」ことが重要です。そこで、生物多様性に関する情報などが加茂地域に浸透し、日常生活や事業活動の中で、自然環境や温暖化の防止などに配慮できている姿を目標とします。

取り組み1

生物多様性を知ろう！

▶ 19頁に詳細

みのかも定住自立圏8市町村には、それぞれのまちの生物多様性や生物多様性に根差した文化を学ぶことのできる学習施設や場があります。市街地から山間部へ、また山間部から市街地へと行き来して、豊かな生物多様性を感じ取りましょう。

取り組み2

自然となかよく暮らそう！

▶ 19頁に詳細

私たちは、普段の生活や事業活動の中で、知らず知らずのうちに自然環境に負担をかけているかもしれません。自然と調和した生活の中には、地域の食を楽しむ地産地消や、自然に配慮した農法で生産物に付加価値をつける取り組みなどがあります。楽しみながら自然と仲良く暮らす取り組みを始めましょう。



目標 2

地域における人と自然の
関係が見直され、
再構築されている

森・里・川・海の
つながりが
確保されている

アンケート調査から、地域の年長の方ほど、身近な生き物についてよく知っていることがうかがわれました。これは、年長の方に人と自然の関係が深かったころの様子をご存じの方が多いことと関係していると考えられます。

世代間の交流の中で、自然とのつながりが深かったころの生活の様子や、地域の生物多様性に根差した食文化などが伝えられ、人と自然の関係や自然のつながりが見直された姿を目標とします。

取り組み 3

地域の自然や文化を伝えよう！

▶ 20頁に詳細

地域の生物多様性や、生物多様性に根差した文化を伝える取り組みを始めてみましょう。ふだん当たり前に感じていることが、少し離れたまちの方には新鮮で珍しいものに映るかもしれません。取り組みの中で人の交流が生まれ、地域の活性化にもつながるでしょう。

自然の恵みを分かち合おう！

▶ 20頁に詳細

みのかも定住自立圏8市町村で生産される旬の食材や、地域の伝統料理などを分かち合いましょう。



目標 3

地球規模の視野を
持って行動している

科学的基盤が強化され、
政策に結びついている

地域の自然環境を守っていくためには、多くの人が協力をして環境管理活動に参加することが必要です。また、地域の自然環境の現状や、変化を調べて新しい政策につなげたり、豊かな自然や自然の恵みを産業に結び付ける取り組みに発展させていくことも大切です。

こうした観点から、地域住民が地球規模の視野を持って行動していること、科学的基盤が強化され、政策に結びついていることを目標とします。

取り組み 4

関心を行動へ移そう！

▶ 20頁に詳細

積極的に生物多様性の保全活動に参加してみましょう。生物多様性の学習会、里山管理や植樹活動、自然環境調査など、みのかも定住自立圏8市町村にはさまざまな場が用意されています。生物多様性への関心や思いを、生物多様性を守る活動へ進めてみましょう。



9

総合的かつ計画的に 講ずべき施策



取り組み

1

生物多様性を知ろう!

行政の
取り組み

- 「守りたい加茂の豊かな自然」冊子などを活用した生物多様性への理解促進
- 市町村の自然環境の特色を生かした自然観察会や里山歩き等の自然環境に関する学習会の開催
- 環境フェアなど生物多様性に関わるイベントの実施
- 事業者に向けた、学習会の開催支援
- みのかも定住自立圏8市町村の住民や事業者に向けた学習会等の情報発信
- 外来生物や対策についての普及啓発

住民の
取り組み

- 加茂地域8市町村などが実施する自然観察会や里山歩きなど、どのようなイベントが行われているか関心を持ちましょう。

事業者の
取り組み

- 従業員研修の一環として、生物多様性に関する学びを行いましょう。



取り組み

2

自然となかよく暮らそう!

行政の
取り組み

- 生物多様性に配慮した日常生活の普及啓発（生活排水、ごみの削減、温暖化対策など）
- 生物多様性に配慮した農法の普及啓発
- 地域製品の消費拡大
- 鳥獣対策の推進
- 生物多様性に配慮した公共工事の実施
- 耕作放棄地の解消
- 森林整備（間伐など）の推進
- バイオマス利用の促進

住民の
取り組み

- 生活排水による水質汚濁への配慮、ごみの削減を心がけましょう。
- 地球温暖化対策として、公共交通機関の利用などに取り組みましょう。
- 地元でとれた食材に関心を持ちましょう。

事業者の
取り組み

- 生物多様性に配慮した原材料の確保や、排水、廃棄物による生物多様性に対する負荷低減に取り組みましょう。
- 地球温暖化対策として、クールビズなどに取り組みましょう。
- 生物多様性に配慮した農法について関心を持ってみましょう。

取り組み

3

地域の自然や文化を伝えよう!



行政の 取り組み

- 伝統文化の継承支援
- みのかも定住自立圏8市町村に向けた地域情報の発信
- 地域の生物多様性を伝える人材育成
- 旬の食材や伝統料理などの紹介

住民の 取り組み

- 加茂地域8市町村などのイベントなどで、昔の自然の様子や地域の祭りの様子を伝えてみましょう。
- 加茂地域の文化や昔の自然との付き合い方などについて、地域の自然をよく知る年長の方などのお話を聞く機会を持ちましょう。

事業者の 取り組み

- 地域を構成する一員として、行政や市民の取り組みに協力しましょう。

取り組み

4

関心を行動へ移そう!



行政の 取り組み

- 多様な主体との協働
 - 自然環境調査の継続
 - 外来生物の調査・侵略的な外来生物の駆除
 - 里山等の管理
 - 有害鳥獣の調査・駆除
- 生物多様性を基盤とした観光産業の振興

住民の 取り組み

- 市町村などが実施する自然環境調査や里山などの管理活動、外来生物の防除活動などへ参加してみましょう。
- 環境フェアなど生物多様性に関わるイベントや、加茂地域の食材を利用した郷土料理や文化の交流会など、興味のある催しなどに参加してみましょう。

事業者の 取り組み

- 企業のCSR活動の一環として、市町村の実施する自然環境調査や里山などの管理活動、外来生物の防除活動などへの参加を検討しましょう。
- 市町村と協力して地域の生物多様性や自然の恵みを消費者に発信しましょう。

※CSR活動:CSRは「企業の社会的責任」を意味します。また、CSR活動は、企業の社会的責任を踏まえて、社会がより良くなることで、企業もいっしょに発展していこうという考えのもとに進められる活動です。

どんなことが できるかな？

生物多様性が豊かで 暮らしやすい地域をめざして

8市町村が思いを1つにして
「生物多様性加茂プラン」をつくりました。
では、実際にどんな行動につなげるか
こんな意見が出ています。



こどもたちには、
教科書どおりではなく、
生物多様性を利用する
人間の知恵も知ってほしい。
例えば、おいしいトマトを
育てる方法とか、
よい材木になるように
木の世話をすることとか。

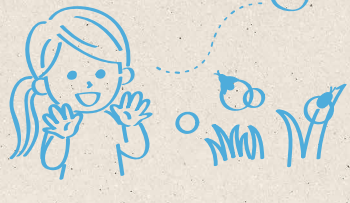


自然に影響のありそうな
公共工事をするときは、
事前にチェックしておく項目を
整備してはどうだろう？

「ぎふ清流里山公園」には
自生のホタルもいます。
県外からのお客さんも多いので、
加茂地域の情報発信など、
一緒にやっていきましょう。



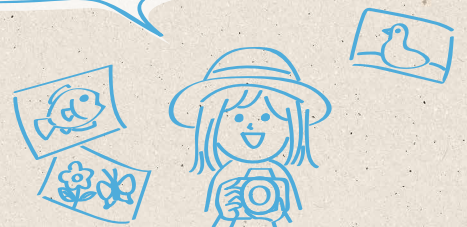
30年くらい前に、
川をコンクリートで固め、
田んぼは大型機械が入れるように
整備した結果、生きものが
見られなくなってしまった。
このままでいいのか。
手を加えれば生きものが
戻ってくるのではないか、
ということを専門家に相談したい。



8市町村のこどもたち同士で
自分の住む地域のことを
教えあったらどうだろう。



自然調査をしたときに、
生きものたちのいい写真が
たくさん撮れたので、
地域の皆さんに紹介したい。

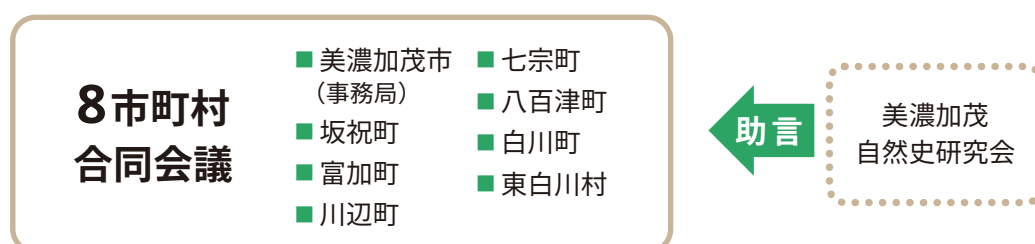


10 施策を推進するために 必要な事項

推進体制と主体別の役割

加茂地域の8市町村（美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村）で構成する「合同会議」によって、本計画の進行管理と見直しを行います。

また、計画の推進に当たり、美濃加茂自然史研究会にアドバイザーとして参画していただきます。将来的には住民や事業者が主役となった仕組みづくりを目指していきます。



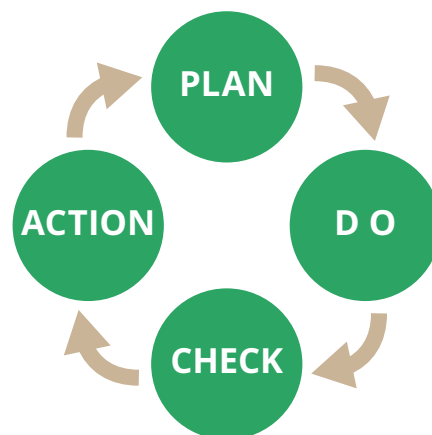
進行管理

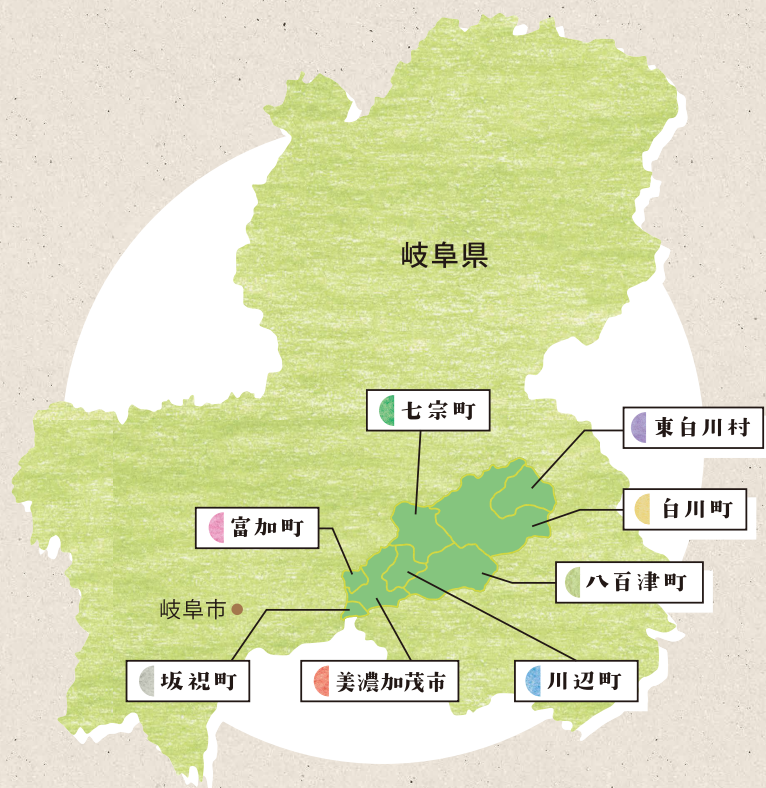
進捗状況の把握および公表

PDCAサイクルに基づいて進行管理を行います。今後、他市町村の例も参考にしながら定めていきます。

計画の見直し

8市町村の担当者および、美濃加茂自然史研究会を交えた会議で検討を行います。見直し期間等は今後検討を行います。





生物多様性加茂プラン 令和2年3月

発行

■ 美濃加茂市(事務局) ■ 坂祝町 ■ 富加町 ■ 川辺町
■ 七宗町 ■ 八百津町 ■ 白川町 ■ 東白川村

お問い合わせ窓口

市町村名	担当窓口	電話番号(代表)
美濃加茂市	環境課	0574-25-2111
坂祝町	水道環境課	0574-26-7111
富加町	産業環境課	0574-54-2111
川辺町	産業環境課	0574-53-2511
七宗町	水道課	0574-48-1111
八百津町	水道環境課	0574-43-2111
白川町	建設環境課	0574-72-1311
東白川村	建設環境課	0574-78-3111